

34 金沢工業大学

Kanazawa Institute of Technology

夢考房フォーミュラカープロジェクト

Yumekobo Formula Car Project

<https://www.facebook.com/KITformula>

ひとりひとりの努力が報われた 8年ぶりの全種目完走



今回の総合結果・部門賞

●総合 19位

Profile チーム紹介・今までの活動

私たち夢考房フォーミュラカープロジェクトは2002年に夢考房プロジェクトのひとつとして発足し、今年で発足14年目を迎えました。メンバー数が50人と比較的大人数であり、運営が大変な時もありましたが、メンバーの多さを生かした車両製作の管理やマネジメントを行い、総合優勝をめざしました。

Team-member チームメンバー

杉本 祐基 (CP)

権谷 基 (FA)

安藤 慶、西秋 健也、狩野 正志、小室 孝太、
昆野 剛、竹内 啓人、濁澤 輝、飯野 晟典、
花村 勇哉、小口 翔、菅沼 俊哉、荒川 清香、
野田 真之介、松本 隆義、木村 光汰、甘利 建文、
有元 良輔、井口 湧登、川野 航奨、北村 正拓、
嶋崎 竜哉、鈴木 琢也、西川 秀輝、西出 裕、
野島 佑太、松坂 貴裕、三石 陽亮、守 拓也、
森田 浩貴、酒井 裕幸、坂野 光一、高橋 穂、
高久 佳雅、池田 雅宏、服部 拓哉、有江 奈緒子、
笹川 拓未、山本 拓実、渡辺 基樹、坂本 明範、
荒木 佑輔、角本 健太、尾崎 雅也

Sponsors スポンサーリスト

アクラックス、ウエダ、AVO/MoTeC Japan、S-G R I D、
NTN、F.C.C.、キノクニエンタープライズ、協和工業、
草島ラジエーター工業所、スズキ、住友電装、高松機
械工業、TAN-EI-SYA、大同工業、トランプ、TWS、
ナオックス、日信工業、梅花、VSN、深井製作所、
丸双ラー、ミスミ、MOTUL、ラストラダー販売

Presentation

プレゼンテーション

今年度は総合優勝を目標に掲げ活動しました。KIT-15modelは『意のままに操ることのできる車両』をめざした車両としました。車両パッケージは『極上～ドライバビリティーの向上～』とし、KIT-14modelからの主な設計変更点はフルエアロデバイス化とサスペンションジオメトリーの適正化です。ドライバーが扱いやすい車は何かを考え、ステアリングのラックバー部分にベアリングを用い操舵力の軽減することや、ペダルをユニット化でドライバーによって即座にペダル位置を変えることが可能となりました。これらの細かい設計変更も含め、ドライバビリティーの向上に繋がる設計ができました。

KIT-15modelでは、KIT-14modelのときと同様に早期シェイクダウン・長距離&高負荷走行をめざしました。去年より始めたマネジメント管理に若干の変更点を加え、更に簡単に管理できるようにしようと試みました。しかし、うまくいかず、結果的に製作面で遅れが生じてしまいシェイクダウン時期が去年と比較し1か月ほど遅れてしまいました。今回も去年と同じく200km近くの走行を重ねる予定でしたが、シェイクダウン遅れの影響で合計141kmの走行となりました。このことから、シェイクダウンの遅れが後の活動に影響することを痛感しました。

今回の成功と失敗を洗い出し、着実に順位を上げていくことのできるチームになるように活動を続けて参ります。

Participation report

参戦レポート

今大会には総合優勝を目標に掲げ大会に臨みました。大会前のチームの雰囲気は良いと言える状況ではありませんでしたが、ピット設営・車両準備のときには自然とチーム一丸となって大会を乗り越える雰囲気になることができました。

1日目から事前車検を受けることができました。大会前の試走会に参加し、問題点を修正できたことが技術車検の一発合格に繋がりました。オートクロスでは2人目のドライバーの2トライ目のとき、雨により出走直前で走行が打ち切られてしまいました。2年連続で天候に苦しめられているので、この時はチームの大多数が「天候もチーム戦略の内なのか」と感じたのだと思います。エンデュランス出走順が早かったので、4日目は早朝からピットに人を派遣してできる限りの作業を行ないました。決して万全とは言えなかったですが、できる限りのことはやったという心持でエンデュランスに臨みました。直前までの整備の甲斐もありエンデュランスを完走することができました。今までエンデュランスで問題が起こりタイヤという状況が多く、今回エンデュランスを完走できたことでチームとして8年ぶりに全種目完走を達成できました。

今大会は、車両も大きく変わりエンデュランスも無事完走できたことで、チームとして変わり目の大会になったと思います。目標の優勝にはまだほど遠いですが、大きな一歩を踏み出すことができたと思います。次大会以降は全種目完走が当たり前となり、最終的には優勝するチームになるように頑張りたいと思います。

Team-Movie <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/13th/movie/34.html>